

8-4-7 新しい生活様式の道路空間WG

1. 活動の目的

コロナ禍は、人とモノの動き、生活様式や社会経済構造を変革した。また、ニーズが多様化する道路空間の賑わい創出に向けて“ほこみち”等の施策が展開される背景より、新しい生活様式に相応しい道路空間創出と新しいモビリティの活用方策について、建設コンサルタントとして、「ひと」中心の「みち」づくりを実現するための提案を行うことを目的として、「新しい生活様式の道路空間WG」は活動した。

2. 主な活動の記録

令和3年6月より、道路空間の新しい使い方について様々な角度から検討を行っており、新しい道路空間活用に関するパンフレットの作成・公表、国土交通省道路局への提言、雑誌「交通工学」への寄稿等を行ってきた。令和6年度には、「道路空間活用ガイドブック（以下、ガイドブックと略す）」を作成・公表し、今年度はガイドブックの普及・活用を促すことを目的とした「道路空間活用シンポジウム（以下、シンポジウムと略す）」を開催するなど、新たな道路空間の活用方策に関する調査・研究、道路行政への提案、成果の会員への発信・普及を行うことなどを主な活動内容として、WG活動を実施した。

の結果総括、ガイドブックの更新が必要な項目整理等を実施した（4月23日、5月27日、6月23日、7月23日、8月27日、9月24日、11月28日、12月24日）。

(2) シンポジウムの開催

本シンポジウムは、WGにおいて令和6年度に作成した「道路空間活用ガイドブック」の更なる周知と活用を促すとともに、道路空間を活用した賑わい創出など、建設コンサルタントが支援可能であることを広くアピールする目的で令和7年10月28日に開催した。

プログラムは学識経験者、実際に道路空間を活用されている自治体、まちづくり団体の担当者、WGメンバーが登壇し、賑わい創出など道路の使い方を工夫したいと考えている人や団体に対して、実際に利活用するまでに必要となる検討事項や地域の活性化に繋がるまでの流れ、ユニークな事例を紹介するとともに、実現するための手法と必要な手続き、課題を分かりやすく解説する内容とした。



図-2 シンポジウム案内リーフレット

3. 次年度の活動について

令和6年度までに作成したガイドブックの改訂および更なる普及に向けた活動等を行うために、引き続きWGにおいて議論する。

活動計画は以下のとおりである。

- ・ワーキング：毎月1回程度の開催予定
- ・チーム会議：WG開催の間に適宜開催
- ・勉強会の開催・視察・ヒアリング
- ・ガイドブック（更新版）の公表・周知

（新しい生活様式の道路空間WGWG長

長田 拓也）



図-1 「道路空間活用ガイドブック」の表紙

(1) ワーキングの開催（計8回の開催：Web 併用）

今後のガイドブック更新に向け、先行取組団体（8団体）へのヒアリング実施・結果のとりまとめ、シンポジウム開催に向けた準備、開催後